

会員近況



鉄道技術研究所
計画管理研究室 石井 博章

ネットワーク研究会 英語で Operations Research Lab. という室にいます。まさにORの研究室ですが内容はそれほどOR的ではなく、鉄道における1つの大きな使命である安全の確保に関係した仕事が多くなっており、信頼性理論や統計解析がその道具になっています。私自身は現在電車線関係の事故を解析し、その原因を追究しようとデータをひねくりまわしているところです。その他交通計画に関係した問題とかネットワークに関係した問題とかを取り扱っていますか、なかなか学会活動に結びつかないのが現状というところです。鉄道には車両運用、乗務員運用あるいは車両割当といったOR的な多くの問題がありますが、理論的かつきれいな定式化ができないものがほとんどで、実用化研究は今後も続けられていくと考えられますが、そういうこともあり、所内の有志により月1度の割合で「ネットワーク研究会」なるものを開催し相互啓発をはかっています。

北海道大学工学部
電気工学科 大内 東

情報交換を 昨年はTIMS国際会議、MPシンポジウムに出席し、両会議の間はサスカチュワン大学(カナダ)で共同研究と忙しい年でした。しかし、2つの会議を通じ、多数の研究者と面識を得て大変プラスになりました。また、サスカチュワンでは、京大の茂木先生とアメリカで学生時代を一緒に過ごしたという方にもお会いし、世間はせまいものだと感じたりしました。研究に関しては、最近システム屋としての仕事が多くなり、とくに、ここ数年続けてきた「低次栄養段階における海洋生態系に関する研究」がようやくまとまってきて、理論のまとめや昨年、播磨灘で行なった観測結果の整理に追われています。一方、数理計画の最適配分問題の研究も続けていますので、この文をご覧になった方で同じ問題を

取り扱っている方がいらっしゃればぜひご連絡ください。情報交換をしましょう。

(株)タジマ・グループ 上田 泰夫
管理本部

人生の真ん中 大学で経済学というマクロを、大学院で経営工学というミクロを(専攻・経済性工学)、また、あいまにプロスポーツマンという経験を経て、目下、経営・管理の実戦を勉強中です。今年こそ『人生の半ば』と考え、上記のような特異な経歴をどんな型で結実させようか、どんな人生を追求しようかと、人生の節目でしっかりと見つけようと思っております。

実戦の中から経営科学について気づいたことを申しあげるなら、一方で『最先端の理論』があると同時に、全企業の3/4を占める中小同族会社向けの『やさしい・実践的な・簡易法的な理論』の開発が役立ち、経営科学の中で望まれているような気がします。また、経営科学者たる者は経営の経験者が最適という時代がくるようにも思えます。とくにバランスの難しい中企業の経営経験者は、経営科学者として知るべき内容を網羅しているように感じています。

統計数理研究所
第3研究部 青山博次郎

ORを研究し始めたのは 昭和34年英国に留学した頃からでした。当時英国OR学会々長 M. G. Kendall や、英国振興会のお世話でORワーカー、とくに会社関係の方々とお会いすることができました。この時から考えていることなのですが、英国や米国のORワーカーは大学教授になっていても、会社に転職したり、あるいはその逆の場合もあったようでした。ORを研究するには具体的なことが分らない大学教授ではどうしても本質的な研究はできません。外国人の論文を読み、数式だけを発展させても何にもならず、本当の核心は裏の陰にかくれているのかも知れません。

最近会社を定年退職後私立大学の教授になる人があるようになりましたが、この逆がほとんどないようです。大学教授と会社研究員の相互の交替ができるような制度を作るのが必要なのであって、これこそOR学会の新しい発展の key point であると考えております。

会合記録

() 内は出席者数

ORサロン	2月2日(土)(13)
表彰委員会	2月13日(水)(5)
庶務幹事会	2月15日(金)(7)
主査会議	2月22日(金)(13)
月例講演会	2月29日(金)(15)

入退会

●入会 (正会員)

組田 南雄 (株)フジミック

●退会 (正会員)

井上 博 飯塚成一 家元良雄 今井俊和 岩本隆幸 小野道弘 岡田一男 加藤和幸 勝野裕文 金子守喜 安善市 北嶋弘行 佐久間照夫 笹井 均 清水道夫 田上和光 田島一郎 田畑勝敏 高見義則 千野貞子 千葉勝征 角田範明 豊田準三 戸田常一 中村 忠 西村雅彦 人見勝人 福田拓生 真弓昌三 柵木信吾 松岡進士郎 溝上 銈 宮沢信一郎 米沢 滋 米村洋一 渡辺 智 渡辺章司 J. B. KADANE

Y. ROLL 大芝政秋

(学生会員)

手塚 集 橋本 猛 松本保美

(賛助会員)

日本合成ゴム

●移動 (学→正)

上本 和義 第二精工舎

菊池 健夫 大阪府立住吉高校

熊谷 紀男 国際医学情報センター

古関 洋一 遠軽信用金庫

坂口 直樹 三菱商事

高橋 正子 慶応大

仲川 勇二 高松工高専

野田 謙二 東亜合成化学

能村 幸彦

平井 信夫 西松建設

藤川 隆文 日立

米山 寛二 コンピュータサービス

竹内 篤夫 日本電気

●入会 (正会員, 55年度より)

青木 茂 電々公社仙台電信電話料金局

石川 治 北海道大学工学部

磯前 秀二 東京大学大学院農学系

浮田 静雄 工学院大学機械工学科

岡本 金義 中部品質管理協会

奥村 真司 北海道工業大学

折原 志郎 朝日麦酒(株)企画部

金川 一夫 近畿大学工学部

神澤 等 日本大学短期大学部

佐藤 宗弥 横浜市立大学商学部

柴田 典男 慶応義塾大学大学院

白井 宏明 富士通(株)

高橋 世 日本テトラポッド(株)

遠山 澄 日本アイ・ビー・エム(株)

内藤 実 広島経済大学

長塚 聡 (株)南北社

根来 和子 成蹊大学工学部

三浦広徳 日電東芝情報システム(株)

吉弘 貴 岐阜経済大学

渡辺 博 (株)リコー

力宗幸男 神戸商科大学管理科学科

中井 直男 日本アイ・ビー・エム(株)

(学生会員)

秋場 優子 東京大学医学部

大曾根 匡 電気通信大学大学院

坂本 清一 慶応義塾大学大学院

杉原 秀樹 広島大学大学院

新保 玲子 慶応義塾大学大学院

(賛助会員)

興亜石油株式会社

日本電気ソフトウェア株式会社

編集後記▶この号がお手許に届く頃には桜前線が北上している頃だと思えます。▶機関誌編集のお手伝をすることになってから、そろそろ1年になりますが、その間感じたことを1, 2書いてみることにします。▶まず一番驚いたことはほぼ全員が初めて機関誌の編集に参加することになってしまったということです。なにしろ在庫が零に等しい状態ですから、発足当時の自転車操業ぶりは想像していただけたらと思います。現在は高橋委員長、森清幹事のもとに、チームワークもとれるようになって

きました。これからは中だるみを警戒しなければいけないのかも知れませんが、こんな経験から1つの提案をしたいのですが、それは新旧編集委員会が合同で会議を開催することを制度化することです。こうすれば在庫が零ということも無くなるだろうし、編集方針についても充分議論する機会も増えるのではないかと思います。パーキンソンではありませんが、毎号雑誌を出すことにおいて雑誌の性格や編集そのものについての議論をとかく忘れがちです。会員諸氏のご意見を歓迎します。(K)

オペレーションズ・リサーチ

昭和55年4月号 第25巻 (新シリーズ第5巻) 4号 通巻232号

代表者 小林 宏 治

発行所 社団法人 日本オペレーションズ・リサーチ学会
東京都文京区弥生2-4-16 学会センタービル
(電話 03-815-3351~2) ☎ 113

編集人 高橋 磐 郎

発売所 株式会社 日科技連出版社
東京都渋谷区千駄ヶ谷5-4-2 ☎ 151

本誌のご注文は直接

日本オペレーションズ・リサーチ学会へ

定価 650円 (郵送料含) 年間予約購読料 7200円 (郵送料含)

本誌への広告お申し込みは日経弘報社 (563-2241), 明報社 (571-2548) へ